

# ネット×地元限定で快走



ais  
rew

絹立蔵

塚原 敏夫氏

上川大雪酒造社長

つかはら・としお 90年(平2年)小樽商大商学部卒、野村証券入社。米AIG傘下のアリコヤリクルートエグゼクティブエージェントを経て、12年に三国清三シェフと共同で三国プランニングを設立し副社長。17年上川大雪酒造を設立し現職。52歳。

2017年に設立した上川大雪酒造(北海道上川町)がオンラインと地元限定を並走させる販売スタイルで快走している。新型コロナウイルスによる外出や宴会の自粛で需要減に苦しむ酒蔵は多いが、オンライン販売の伸びで2~5月の売上高は前年比8%増えた。コロナとの共存時代を見据えた成長戦略を、塚原敏夫社長に聞く。

—2月以降の新型コロナウイルスの影響は。  
「いつも10ケース出荷する酒屋が1ケースに減るなど、3~4月は前年を下回ってしんどかった」

## 2~5月の売上高8%増

「支援してくださった方の比率は北海道外の方が半分。九州や沖縄の人もいる。CFとオンライン

—クラウドファンディング(CF)での資金調達は数日で2000万円以上を集めました。

「支援してくださった方の比率は北海道外の方が半分。九州や沖縄の人もいる。CFとオンライン

## 会員数4倍の2万人目指す

た。その後はオンラインが伸びてカバーし、2~5月でみると売上高は8%増。オンライン会員はこの期間に約10000人増え、47000人に。6月も同部門の売上高は2倍以上となっている。

「うちのユーザーはわりややすく言えば、浮気しない人。(他に酒蔵のない)地元では浮気のようにがなく、酒蔵を宣伝する営業マンになつてくれる。特約店に対してはますうちの酒蔵を見てもらい、相思相愛にならな」と取引しない。問い合わせ

「うちのユーザーはわりや軽く言えば、浮気しない人。(他に酒蔵のない)地元では浮気のようにがなく、酒蔵を宣伝する営業マンになつてくれる。特約店に対してはますうちの酒蔵を見てもらい、相思相愛にならな」と取引しない。問い合わせ

「今後の戦略は。」「通販システムを増強し、道外の人にもっと道産酒を飲んでほしい。上川の『緑丘蔵』と十勝の『碧雲蔵』(帯広市)の通販事業はいずれ合併し、1つの会社にした。5月に開設した札幌のオフィスも生きる。21年度には外部の有識者を入れて、将来は会員数を4倍の2万人にしたい」

「醸造と合わせた地域振興モデルも道内の各地で協議している。本首を言つと、他に酒蔵を開設したい人がもっと出てく

れば良いのと思う。巡り巡ってうちのためになるし、応援して地酒を盛り上げたい」

—杜氏(とうじ)の川端慎治氏が帯広畜産大(帯広市)の客員教授に就任しました。

「川端さんをどんどん有名にして杜氏の社会的な地位を上げないと、良い人材が集まらない。成り功した先人がいて、モデルを示せば裾野が広がる。帯畜大の学生からみて『杜氏ってすごいな』と。作る方とマーケティングは両輪で、川端さんには副社長になってもらった」

## 逆風下の成長モデルに

人口35000人の上川町には、上川大雪酒造の限定酒を求めるファンが来訪が引きも切らない。この地域でしか買えないが、町に来ればコンビニエンスストアでも買える。オンラインや道内中心の特約店向けにもそれぞれ異なる限定酒を置き、ファンを飽きさせない。

人口35000人の上川町には、上川大雪酒造の限定酒を求めるファンが来訪が引きも切らない。この地域でしか買えないが、町に来ればコンビニエンスストアでも買える。オンラインや道内中心の特約店向けにもそれぞれ異なる限定酒を置き、ファンを飽きさせない。

これが塚原社長の提唱する「上川モデル」だ。北海道酒造組合(札幌市)によると、道内の日本酒の酒蔵は現在12。全盛期は離島を含め200超の酒蔵があったというが、消費者の日本酒離れで徐々に姿を消した。新型コロナ禍で逆風はさらに強まり、2~5月の出

い。これが塚原社長の提唱する「上川モデル」だ。北海道酒造組合(札幌市)によると、道内の日本酒の酒蔵は現在12。全盛期は離島を含め200超の酒蔵があったというが、消費者の日本酒離れで徐々に姿を消した。新型コロナ禍で逆風はさらに強まり、2~5月の出

荷量は前年同期比4割強減。5月末時点の在庫量は670キリと昨年の4倍に積み上がっている。門田昭専務理事は「資金回収できず、秋以降に米を買えない酒蔵が出てくる」とため息をつく。道内で飲まれる日本酒のうち道産は2割を切る水準にすぎない。観光人気

はあっても、北海道の地酒の魅力が認知されているとはいえない。北海道有数の温泉地として知られる層雲峡のある上川町にとっても「地方創生は魅力のある素材がなければ難しい」(佐藤芳治町長)のが現状だ。新型コロナ禍からの復活を目指す観光産業にとっても、新興の小さな酒蔵の発信力が貴重な観光資源となっている。(向野峻)